

福島県におけるマガレイの漁獲と資源動向

福島県水産試験場水産資源部
福島県水産試験場研究報告第13号

1 部門名

水産業－資源管理－マガレイ
分類コード 19-04-43000000

2 担当者

山廻邊昭文

3 要旨

福島県におけるマガレイの漁獲量は、福島県海面漁業漁獲高統計によると、1970年代後半から1,000トンを超える漁獲が続いたが、1980年代後半から急減し、その後は増減を繰り返している。2004年は1,321トンと急増した。

月別漁獲量は、9月に最も多く、翌年の8月にかけて減少する傾向がみられ、このうち、12月と5、6月にはいったん増加がみられた。12月はさし網の、5、6月は底びき網の漁獲増加によるものであった。

標本船の操業記録によると、底びき網の漁場は、3月から6月までは100m以浅にみられたが、9月には水深100mの沖にまでみられ、マガレイは夏～秋季に沖出し、冬～早春季に接岸する深淺移動をしているとみられた。

2001年から2004年の9～12月の市場調査結果から推定した、底びき網による漁獲尾数は、2003年、2004年がともに422万尾、2001年が313万尾、2002年が153万尾であった。各年の全長組成からみた資源加入水準は、2002年級>2000年級>2001年級であり、2003年級は高い水準にないとみられた。

2004年9～12月の底びき網による漁獲量は604トン、平均単価は414円/kgであった。漁獲量は、2003年同期の1.6倍、2002年同期の3倍であり、平均単価は、全長組成が類似した2002年同期の1/2以下で、小型魚主体の2003年同期と同程度であった。2004年は、2002年級の良好な資源加入とその成長により漁獲量が増加したとみられたが、一方で、漁獲量の急増が平均単価を低下させたと考えられた。

4 その他の資料等

なし